

令和元年6月13日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02366

研究課題名(和文)近代山陰地域の漢詩と官僚出身政治家の文化教養環境 中国文学と日本史学の学際的研究

研究課題名(英文) Cultural environment of chinese-style poetry and beaurocratic politician in San'in region

研究代表者

要木 純一 (Yogi, Junichi)

島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授

研究者番号：00230631

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：1「渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡」「渡部寛一郎日記」を順次翻刻し刊行した。2、立憲政友会機関誌『政友』、立憲民政党機関誌『民政』の漢詩欄を検討して、政党機関誌に漢詩が一貫して掲載されており、両党の党员等の文化環境の一翼を漢詩が占めていることを明らかにした。3、松江市に本拠をおく漢詩結社・剪湊吟社の創立と展開を会員構成を中心として検討し、初期には知事・郡長等の地方官僚が、中等学校教員・弁護士等とともに重要な構成員であったことを確認した。また、政党関係では、憲政会関係者、憲政会系新聞「松陽新報」が剪湊吟社と密接に関係していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全国的にも有力な漢詩結社であった剪湊吟社の存する山陰地域を対象として、地域の文化教養環境の中で漢詩・漢学が占める位置を、文学と歴史学の学際的研究によって実証的に明らかにした。渡部寛一郎ら同社の漢詩人と、渡部に学んで多くの漢詩を詠んだ松江出身の総理大臣・克堂若槻礼次郎ら官僚出身政治家等が形成した地域の文化教養環境の実態と変化等を紹介し、政党政治期の人々の文化教養実態に占める漢詩の位置を究明した。忘れられかけた彼らの活動を顕彰して、世に知らしめることができた。

研究成果の概要(英文)： Watanabe Kanichirou (1854 - 1938) was an influential educator in Shimane prefecture and the head of the society in support of Wakatsuki Reijirou (Kokudoukai). We transcribe Wakatsuki's letters. In these letters we can perceive the relationship between statesmen of central government and local intellectuals in those days. Exchanging Kanshi poems (Chinese style poems) on letters was very important for such relationship. We also made notes on his diary written on 1898. Through this Anotation we can perceive Wtanabe's relationship with important persons of educational society and statesmen and beaurocrats. We can understand the situation of the central politics and the local politics in those days. Most of the notes are based on rare historical mateareals which are not easy to search now.

研究分野：中国文学

キーワード：若槻礼次郎 渡部寛一郎 日本漢詩文 剪湊吟社 政党政治 山陰地域 官僚 地方と中央

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、幕末明治以後の日本の近代化過程における漢学・漢詩文学の貢献について、再評価が進められている。儒教的合理性を身につけた知識人は、官界や教育・思想界で活躍し、江戸時代をはるかに凌駕するような質・量の漢詩文を創作・発表した。その結果、口語文学が勃興するまでの間、近代漢詩文は和文を圧倒するまでの盛行を見たことは、今や共通理解となっている。しかし、こうした基礎的な文献の収集・整理は大変遅れており、とりわけ地方の漢詩資料の整理等の基本的な作業はほとんど着手すらされていない。

2. 研究の目的

本研究は、近代日本における漢詩・漢学の再評価という近年の学界潮流にもかかわらず、なお研究が手薄な地方の実態を究明することを目的とする。その際、有力な漢詩結社であった剪淞吟社の存する山陰地域を対象とし、同社同人の漢詩人と、同じく漢詩文化の担い手であった官僚出身政治家の文化教養環境との関係を、文学と歴史学の学際的研究によって実証的に解明する。具体的には、剪淞吟社第二代社長の渡部寛一郎と、渡部を漢詩・漢学の師と仰ぎ自身の後援会である克堂会会長に迎えた官僚出身政治家若槻礼次郎の「漢詩を媒介とする関係」の実証的分析を基礎に、山陰地域で形成された漢詩人ネットワークとその文学活動・政治活動の関連を究明する。

3. 研究の方法

例会は、月一回開き、遠方の研究協力者を招いた、特別例会は、年2回開く。渡部寛一郎日記の翻刻に向けて、主にこの例会で、解読を進め、原稿まとめや校正を経て、『山陰研究』誌上に発表する。また、年表、登場人物の簡単な履歴、社会背景等を注釈の形で、別個同誌上に発表する。若槻礼次郎や山陰漢詩人の漢詩集を、学生アルバイト等を用いて、データベース化し、人名索引等を付した、翻刻をまとめる。

4. 研究成果

- (1) 渡部寛一郎文書中、本研究の史料的基盤となるの「渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡」「渡部寛一郎日記」を順次翻刻し刊行した。
- (2) 立憲政友会機関誌『政友』、立憲民政党機関誌『民政』の漢詩欄を検討して、政党機関誌に漢詩が一貫して掲載されており、両党の黨員等の文化環境の一翼を漢詩が占めていることを明らかにした。
- (3) 松江市に本拠をおく漢詩結社・剪淞吟社の創立と展開を会員構成を中心として検討し、初期には知事・郡長等の地方官僚が、中等学校教員・弁護士等とともに重要な構成員であったことを確認した。また、政党関係では、憲政会関係者、憲政会系新聞「松陽新報」が剪淞吟社と密接に関係していることを明らかにした。
- (4) 若槻礼次郎とその漢詩・漢文の師である渡部寛一郎の信頼関係の基盤に漢詩があることを、「渡部寛一郎日記」および若槻礼次郎 渡部寛一郎宛書簡とそこに書かれた漢詩をもとに明らかにした。
- (5) 剪淞吟社と憲政会・立憲民政党の密接な関係を、剪淞吟社の社員構成、若槻礼次郎来松歓迎詩会等を素材として明らかにした。
- (6) 島根県における政党政治期の地域政治の展開過程を、各種選挙結果、若槻礼次郎を擁する憲政会の活動に焦点を当てて明らかにした。また、島根県における政党政治期(大正デモクラシー期)の地域政治の動向の研究史上の位置を確認するため、政党政治展開の歴史的前提となる自由民権運動期の松江と東京との関係を、松江出身の民権家である高橋基一の活動と思想に即して明らかにした。
- (7) 地域政治と地域文化の戦前・戦後期の展開過程を、明らかにするために必要な地域史料の調査・研究の一環として、竹永三男と板垣貴志は、島根大学における古文書学実習の場を活用して、学習院 大学大学院アーカイブズ学専攻、島根県総務課竹島資料室と共同して飯石郡飯南町の旧役場文書の調査・整理に取り組み、その報告書を刊行した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計16件)

- | | | | |
|----------|--|-------------|-----------------|
| 要木 純一(他) | 翻刻 渡部寛一郎日記2(明治三十一年・三十二年) | 山陰研究 11 | 2018 |
| 61-73 | | | |
| 大國 由美子 | 渡部寛一郎日記2(明治三十一年部分)注釈 | 山陰研究 11 | 2018 |
| 75-90 | | | |
| 竹永 三男 | 地方長官会議・東北振興調査会と東北六県:「地域格差」「地域要求」と「東北の特異性」論 | 部落問題研究 225 | 査読有 2018 86-114 |
| 竹永 三男 | 「行き倒れ」から見た近現代の日本:『『行き倒れ』の近代史』の試み | 人権と部落問題 912 | 2018 37-43 |
| 要木 純一 | 訳注『出雲名勝摘要』(四) | 島大言語文化 45 | 2018 1-22 |
| 要木 純一 | 訳注『出雲名勝摘要』(五) | 島大言語文化 46 | 2018 1-21 |
| 板垣 貴志 | 牛から読み解く時代と社会 | 和牛 285 | 2018 18-19 |

- ⑧ 要木 純一（他） 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（続） 山陰研究 9 2017 1-28
 竹永 三男 松江藩から松江県・島根県へ 『島根県歴史』・郡村誌の編纂と近代松江の出発点の諸相」 松江市史 史料編 9 近現代 2017 10-20
 要木 純一（他） 翻刻 渡部寛一郎日記 1（明治三十年二月から四月まで） 山陰研究 10 2017 69-88
 竹永 三男 民権派ジャーナリスト・高橋基一の活動とその立憲主義論の基礎的検討：『朝野新聞』掲載の論説を中心として 部落問題研究 223 2018 61-90
 板垣 貴志 〔書評〕国文学研究資料館編 『社会変容と民間アーカイブズ - 地域の持続に向けて - 』 アーカイブズ学研究 27 査読有 2017 136-140
 杉谷 直哉 島根県における憲政会・立憲民政党勢力の形成と展開 山陰研究 102017 1-18
 竹永 三男 二世紀の松尾史学 松尾尊兌氏の大正デモクラシー史論と現代の民主主義 日本史研究 648 査読有 2016 3-35
 竹永 三男 大山喬平氏の中世身分制・農村史研究の軌跡 『領主制・中世村落・身分制』研究から『ゆるやかなカースト社会』論、『ムラの戸籍簿』研究へ 部落問題研究 218 査読有 2016 2-103
 板垣 貴志 史学・経済史学の研究動向 年報村落社会研究 52 査読有 2016 244-255

〔学会発表〕(計1件)

板垣 貴志 地域とつながる人文学の挑戦 島根大学法文学部山陰研究センター 2017

〔図書〕(計2件)

板垣 貴志（他） 今井出版 地域とつながる人文学の挑戦 - 山陰の文学・歴史学・考古学研究から考える - 2018 112p 内11-30執筆
 板垣 貴志 竹永 三男（他） 飯南町旧役場文書調査団 島根県飯石郡飯南町旧役場文書調査報告書・旧役場文書目録 2018 269p

〔その他〕

ホームページ等

山陰研究センター論文データベース

http://albatross.soc.shimane-u.ac.jp/src/kiyo/kiyobase/rb_top.html

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：板垣 貴志

ローマ字氏名：(Itagaki, Takashi)

所属研究機関名：島根大学

部局名：法文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：80588385

研究分担者氏名：竹永 三男

ローマ字氏名：(Takenaga, Mitsuo)

所属研究機関名：島根大学

部局名：法文学部

職名：名誉教授

研究者番号(8桁)：90144683

(2)研究協力者

研究協力者氏名：小林 啓治

ローマ字氏名：(Kobayashi, Hiroharu)

研究協力者氏名：蔡 毅

ローマ字氏名：(Cai, Yi)

研究協力者氏名：道坂 昭廣
ローマ字氏名：(Michisaka, Akihiro)

研究協力者氏名：大原 俊二
ローマ字氏名：(Ohara, Shunji)

研究協力者氏名：内田 融
ローマ字氏名：(Uchida, Toru)

研究協力者氏名：大國 由美子
ローマ字氏名：(Oguni, Yumiko)

研究協力者氏名：居石 由樹子
ローマ字氏名：(Orishi, Yukiko)

研究協力者氏名：大原 俊二
ローマ字氏名：(Ohara, Shunji)

研究協力者氏名：杉谷 直哉
ローマ字氏名：(Sugitani, Naoya)

研究協力者氏名：原 洋二
ローマ字氏名：(Hara, Yoji)

研究協力者氏名：本井 優太郎
ローマ字氏名：(Motoi, Yutaro)